

「老守通信」2022年2月号（通年第200号）

あおぞら八重垣園長 原啓子 発行

節分会

2月3日は、毎年恒例の節分会を行いました。赤鬼・青鬼に扮した職員がフロアを練り歩きます。本館では、入園者様には豆の代わりに新聞紙を丸めたものを、鬼は外！福は内！の掛け声で鬼に投げつけていただきました。入園者様も鬼やひょっとこのお面をつけて参加して頂きました。笑顔があふれる賑やかな節分会となりました。当日の給食は、節分にちなんで、ちらし寿司やイワシのつみれ煮となっております。皆様に季節感を味わっていただけましたら幸いです。また当日の様子はホームページにも掲載しております。ぜひご覧ください。

新型コロナウイルスへの対応について

松江市においても連日新型コロナウイルスの感染者が報告されています。オミクロン株による感染が急速に拡大しています。あおぞら八重垣本館新館・別館の入園者様、従業員につきましては1月17日よりワクチン（ファイザー社製）の嘱託医による追加接種を行い、お断りのあった方を除き、ほぼすべての方に接種を完了して頂いております。施設に感染を持ち込まないよう、従業員に対し毎日の注意喚起を行い、身近で陽性者、濃厚接触者が発生した場合は休みを取りPCR検査を受けるようにしていただくなどの対応をとっております。入園者の皆様の安全安心の生活のために取り組んでまいります。

音楽療法の取り組み

あおぞら八重垣では毎日16時半より昔懐かしの音楽を一日2曲ずつ放送し入園者様とのコミュニケーションを図る場を設けています。選曲は入園者様のリクエストをいただき、少しでも楽しんでいただけるようにと思っております。懐かしいメロディーや歌詞から、故郷や若かりし頃のことなどを回想することで、脳への刺激となり認知機能維持へと繋がります。また音楽に合わせてリズムや手拍子をとることで身体機能の維持、音楽を通してコミュニケーションを図り精神の安定化を目指します。